

星屑

No.324
Mar. '02



熊本県民天文台

←ワールドカップみたい

あと161日

今回は高田がかきました。

天文台20周年記念行事について

天文台では、7月27日のコンサートを中心とした20周年記念行事にむけ動き出しています。目下、運営委員を中心とした準備段階ですが、準備が進むにつれ、当日も含め会員の方の協力が不可欠となってきます。

今回の行事は、熊本県民天文台が主催ですが、会場となる火の君総合文化センターにも全面的に協力していただいています。2月1日には、最初の準備会が文化センターに関係者が集まって開かれました。(今月号の艶島台長の記事参照)

今回は、記念行事の紹介と現在の状況をお知らせします。これまでの星屑でたびたび紹介されていて内容が重複しているかもしれませんがご容赦ください。

開催通知、告知

天文台関係者、御寄付をいただいたところ、雑誌社、同好会に告知、招待状を発送します。創設時から20年も経っていることから、連絡がとりにくくなっている関係者の方もいます。まずは、名簿づくりから始めようとしています。

直前の開催通知

7月になって、再度通知を行います。

売店

ロビーでの星グッズ販売をして、来ていただいたお客さんに「おみやげ」として楽しんでもらいます。お店の責任者は運営委員になりますが、売場の設置準備、販売など手伝っていただく人が必要です。また五嶋みどりさん側からもCDや本の販売があると思います。

五嶋みどりコンサート

文化センター文化ホールを会場に、7月27日午後開演です。

コンサートのチケット入手は、文化センターへのハガキによる申し込みになる予定ですが、会員の皆様も何かしらの「配慮」を行うべく考慮中です。

コンサート終了後は、みどりさんを囲んでスタッフとのティーパーティが予定されています。ここで、スタッフになっていれば、うれしい「特典」がつくかもしれません。

メガースター（超プラネタリウム）

制作者の大平さんから今回のイベントに賛同され、できるだけ参加されたいとの意向です。

しかし、ちょうどこの時期、作者の大平さんが海外に出かけられているということで、ご本人が来熊して上演するできなくなりました。もし上演する場合は、プラネタリウムの機械とエアドームをお借りして行うことになります。現在のところ、上演できるのか、まだはっきりしていませんが、実現したときには、応援ボランティアが必要になります。

平成14年度天文台総会 **忘れてならない**

7月26日午後に行う予定です。例年ですと、記念講演会を開いていましたが、今年は記念パーティなどを企画したいと思っています。

ロビー展示

「星ナビ」の表紙絵などで有名な加賀谷さんのイラストをお借りして、詩情あふれる星の世界をつくりだします。すでに艶島さんと内容について話が行われています。

もうひとつの展示物は、「天文台20年のあゆみ」を紹介する写真やビデオです。写真があると、それをスキャンしてパソコンにとりこみ、ポスターサイズ(A1)までに大きく伸ばすことができます。まずは各自が持っている写真を天文台に持ち寄ってどのような展示物にするかコンセプトづくりをはじめています。どうしても欲しい写真が見つからないといった場合、会員に問い合わせがいくかもしれませんがお協力願います。これら展示物はコンサートまでの1週間程度飾られる予定です。

星屑データベース CD-ROM配付

20年分の星屑の記事と目次を収録したCD-ROMを作成し、27日天文台総会会場で配付します。当日、受け取れなかった会員の方には郵送します。

現在、この星屑の記事のスキャンは中島先生、記事のデータベースは高田が作成中ですが、はっきりいつかかなり遅れています。個人で細々やっていたところを戦略を切り替え人海戦術にうってでる予定です。

その他

準備会は毎月1回のトークアバウトの席で開かれていますが、連絡はKCAOメイリングリストをつかって密におこなっています。協力していただける方は、メイリングリストに参加されることをお勧めします。中島先生(kcaohige@kcaohige.com)のところにご連絡下さい。KCAOメイリングリストは、会員の方ですと誰でも参加できます。

以上、現在進行中のものを紹介しましたが、その他なにか、「こんなことをしたらいいんでは?」といったアイデアを受け付けています。なにかありましたらお寄せ下さい。

それでは、ご協力をよろしくおねがいます。

星の停車場 (15) いっかくじゅう座・とびうお座

土山由紀子

3月になると煌びやかな冬の星座が少しずつ西へ傾き、しとやかな春の星座が台頭してきます。雑祭りの夜、冬の面影を惜しむように、まずはふたご座といっかくじゅう座が子午線を通り、中旬に入るとこいぬ座が南中。その後はかすかな春の星座たちが静かに確実にやってきます。

今月はそんな星座たちの中から、冬の銀河に紛れるいっかくじゅう座と、南天を泳ぐとびうお座をご紹介します。

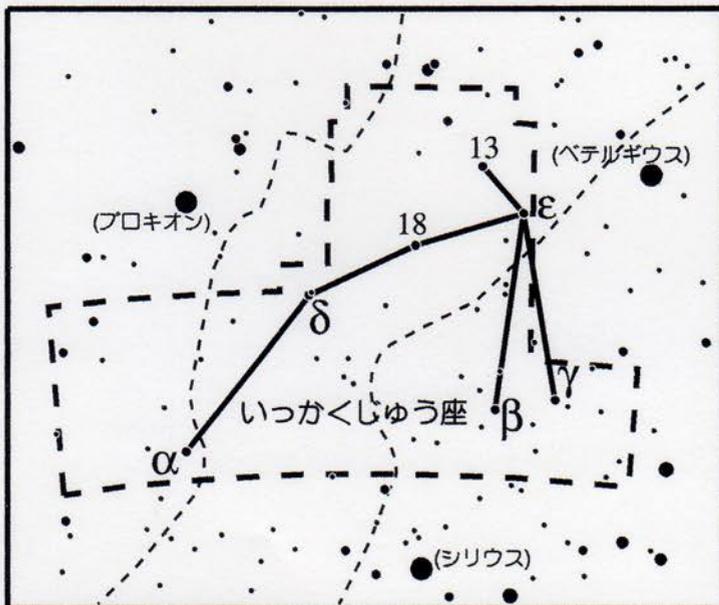
天の赤道上に横たわるいっかくじゅう座は、おおよそ冬の第三角形（ベテルギウス・シリウス・プロキオン）の真ん中に位置していますが、東はうみへび座に接しており、意外に広い面積を持った星座です。

いっかくじゅう座が象っているのは、想像上の動物ユニコーン（一角獣）。ギリシア語系ではモノケロスと呼び、星座名ではこちらが採用されています。設定は、1624年にドイツのヤコブス・バルチウスによるとするのが一般的ですが、それ以前の1564年頃の書物やペルシアの天球儀に既に描かれていたという説、1690年のヘベリウスの書物が最初とする説もあり、定かではないようです。古い星座絵では、この星座は一角獣のほか、馬、鹿、鼻先に角を持った魚などの図柄で描かれていました。

さて、想像上の一角獣がどんな動物だったか、皆さんはご存じでしょうか？ 額に突き出した長い1本の角を持つ、馬に似た動物ですね。古代ギリシア・ローマでは東の国に実在すると考えられており、古くはアッシリアの美術品にも登場しています。古代ギリシアでは、一角獣は靈験あらたかな動物で、角には解毒作用があり、足が速くてなかなかつかまらなると考えられていました。一角獣の角を砕いて薬にすれば悪魔から身を守ることができるともいわれ、多くのハンターが一角獣を狙い、王たちの宮殿では様々な詐欺が繰り

広げられたとも伝えられます。

中世ヨーロッパにおいては、一角獣は人間か人間の子供くらい大きさですが、凶暴で捕まえることは困難、その一方処女の膝に乗るのが好きで、処女をおとりに捕らえて乳を飲ませれば大人しくついてくると言われました。処女を好む一角獣は、中世のキリスト教美術で処女マリアの象徴とされ、やがて宗教画にも登場することになります。



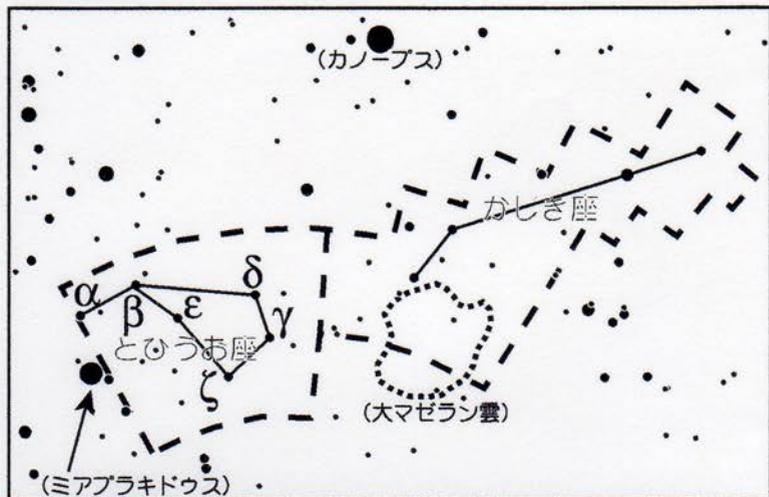
また他の伝説によると、一角獣は世界で最も人里離れた寂しい場所、雲に覆われたヒマラヤの山々の頂に住んでいました。ヒマラヤ地方の人々は、三日月を一角獣の角の象徴、太陽と月を一角獣が行き来する姿と見ており、朝は太陽（獅子）が空の王座を勝ち取り、夕方になると太陽は月（一角獣）にその座を明け渡すのだということです。

神秘的で捕らえどころのない幻の動物という伝説にふさわしく、いっかくじゅう座は冬の銀河に埋もれた探しづらい星座です。α星が3.9等、β星が3.8等、あとは4等星以下の暗い星ばかりで固有名がついた星もありません。

この星座をたどってみるには、まずα星を探し出すとよいでしょう。シリウスとプロキオンを結んだ線を二等分し、そこから少し東へ視線をずらすと、周辺で一番明るい星がいっかくじゅう座αです。αから、ベテルギウスに向かって連なるδ(4.2等)、18番星(4.5等)、ε(4.3等)が胴体、εから南に二つの線を伸ばしてβとγ(4.0等)につなげると、これが2本の前足。εの北にある13番星(4.5等)が額に輝く角の付け根に当たります。

オリオンの背後で銀河の闇に紛れた一角獣は、音を立てずにハンターオリオンに襲いかかる野獣の象徴とも見られています。

次にご紹介するとびうお座は、天の南極付近の星座で日本からは全く見ることができません。赤道直下のシンガポール市まで南下すると、ようやく地平線から20度くらいの高さで南中します。4等前後の暗い星ばかりという事情も手伝って、日本人には馴染みの薄い星座ではないでしょうか。



とびうお座は、ヨハン・バイエルがオランダの航海士ケイザー（ラテン語名ペトルス・テオドリ）の手記を参考に、1603年『ウラノメトリア』に収録し設定した星座の一つです。ケイザーと助手のホウトマンは、当時のヨーロッパ人には珍しい南の動植物などを中心に南天に12個の星座を設定し、バイエルは、はえ座を除く11星座を採用しました。バイエルははえ座の代わりに“みつばち座”を設けましたが、後にラカイユによって訂正され、12星座は全て現在使われています。

とびうお座は、アルゴ座（りゅうこつ座）αカノープスとβミアブラキドウスの間に挟まれた小星座で、星座絵を見ると、アルゴ船にまわりついて戯れているように描かれています。トビウオの頭に当たるα星が4.0等、背びれのβが3.8等、尾のγが3.8等、腹びれのδが4.0等。固有名を持つ星はありません。

とびうお座の西隣にはかじき座がありますが、実際の海の上でもカジキは船の近くを飛び跳ねて遊び、トビウオの群れを追いかけてエサにするということです。

最近のできごと

九州環境ボランティア会議、GSW、加賀谷氏との打ち合わせ、杉上小5年生、他



文化センターでうち合わせ

五嶋みどりリサイタルへ、文化センターで初めての打ち合わせ会議が開催されました。

天文台からは、鹿釜、小林M、中島、艶島の4名が参加。文化センター職員の他に地元の運営ボランティアの方々（写真参照）も加わって、この歴史的なイベントをみんなで作り上げていこうという雰囲気での熱心な打ち合わせが展開されました。

天文台メンバーは、事前に会場を視察、雰囲気を確認しながら、展示や運営についてイメージをふくらませていました。次回の打ち合わせは2月27日（水）。そろそろ具体的な展示内容などを詰める必要があります。

九州環境ボランティア会議

2月2・3日（土・日）、芦北町の県立青少年自然の家で、九州地区で環境問題に取り組んでいるボランティア団体の連絡会議がありました。

環境省が後援していて、総勢10名のスタッフを参加させるという意気込みの中、事前登録は74



団体、124名。さらに、当日参加も多く、200名近くが熱心に討議。天文台からは、日程の都合で、3日に行われた分科会だけに参加。光害の問題を提起し、「防犯灯改善」に取り組んでいる城南町での現状を報告しました。

参加団体相互の討議では、九州地区でのネットワークづくりを推進することが決議されました。また、環境省からも、「ホームページ等を通じて、各団体の環境保全活動を支援していく」という趣旨の発言があり、民間の動きを集約して、環境省としても力を結集していこうとする意欲が感じられました。

GSW連絡会議

1986年夏のHIロケット初号機打ち上げ以来、15年間にわたって「測地衛星=あじさい」の追跡を続けているアマチュアの観測拠点と、宇宙開発事業団との連携で行われている会議。

ちょうどHII-A 1号機の打ち上げ日と重なってしまいました。（チョット延期が続いたので・・・）おまけに、ロケットはうまく上がったのに人工衛星の一つ（大気圏再突入試験機）が分離できな



いという「事件」が発生し、緊張した雰囲気の中、会議が始まりました。

例年通りの観測報告のあと、CCDカメラを衛星に搭載し、衛星の姿勢を検出したり、天体写真を撮ったり、地球観測をしたり・・・という話題から「デジカメで星空」談義に発展しました。

県民天文台で撮影したデジカメ写真やダーク画像のデータを持参していたので、市販のカメラの性能にまで話題が広がり、楽しい会議でした。

しかし、行政改革に伴う整理統合の影響が、GSWへの継続的な予算処置が不明だそうで、来年はどうか分かってなくなっています。光学観測の重要性を認識してもらったという「成果」を残して、これで終わってしまうのでしょうか？

加賀谷さんとの打ち合わせ

GSW会議で上京した機会に、加賀谷さんの新しいオフィスにおじゃまして、7月27日の「五嶋みどり リサイタル」について打ち合わせました。



今では、売れっ子になってしまった加賀谷氏のこと、「追っかけ」ファンも現れているようで、

事務所の所在地などはここではふれないことに。

新しい広々としたオフィスで、モデル撮影のできるスタジオも併設、一段と制作に熱が入りそうな雰囲気の中、打ち合わせが始まりました。

持参した文化センターのパンフレットや見取り図で説明しながら、展示内容について協議。その結果、一般の方々に対する受けの良さを考えると、「これしかない!」ということで、黄道12星座シリーズを中心に展示することを決定しました。

ロビーのはしにある展示スペースをフルに使って、パネルの一面に一枚ずつ12枚を展示します。さらに、ホールへの入り口には、「星ナビ」でおなじみの季節感のある星座絵を展示しようということになりました。

「もし皆さん方からの要望があれば、どの絵でも良いですよ」ということなので、加賀谷さんのホームページから、好きな絵を探してお知らせください。連絡をお待ちしています。

星の手帖へ

加賀谷氏との打ち合わせのあと、数年ぶりで星の手帖社へ。阿部編集長、神田さんといつものようにビールで乾杯。持参した「馬刺の薫製」をつまみに、天文台20周年への協力を要請。

阿部編集長からは、「村山定男さん他、開所式の時に応援してくださった方々も大いに期待しているよ」と、イベントの開催を催促されました。

みんなで集まってワイワイ楽しめる場が欲しいのだと思います。その思いは私たちも同じ。講演会だとなかなか準備が大変かも？

誰かが中心になって手配してくれば何とかできそうだけど、それは、希望者の出現を待つことにして、とりあえず、気軽に楽しめるパーティーなどを企画した方が良いでしょう。

熊本市内のホテルなど、イス席で数十名程度の会場をまず確保しておいてはどうでしょうか？ 期日は、リサイタル前日の26日、金曜日です。会場について情報があればお知らせください。

E-mail: stardust @ mx7.tiki.ne.jp



杉上小5年生とPTA

東京から帰ると、週末は杉上小5年生とPTAの観望会が待っていました。

世話役の丹部（にべ）さんから、事前に何度もお電話を頂いて十分に打ち合わせはできていましたが、杉上小学校からの団体利用は初めて、最初一回で失敗するわけには行きません。チョット緊張しました。

メンバーリストで応援を要請、数名が応援に駆けつけてくれるというので、ホッとしました。当日は、見事なお天気。はじめに、挨拶と簡単な説明をして、「走り回らないこと」など3つの約束をお願いしました。

総勢60名余でしたので2グループに分かれて頂き、観測室での土星・木星・ベテルギウスの観望と、1階での「電子紙芝居」を同時並行で行い、途中で交代していただきました。電子紙芝居は、1) 北斗七星、「鳥の狩人たち」 2) 城南町の民話、「屁のガツパ」 3) 「月の誕生」の3本です。

直前まで動作確認して、この日のために作り込んだ最新バージョンでしたので、皆さんの反応はなかなか良かったですよ!

さいごに、デジカメ天体写真「冬の星の色」をお土産に渡すと、子供達からは大きな歓声が上がっていました。しっかりと企画を練り、準備してくださった丹部さんやPTAの方々のおかげです。応援してくださったスタッフにも感謝!

防犯灯の工事が始まった!

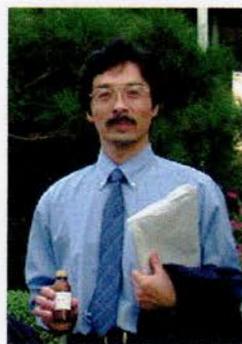
「上方光束ゼロまたは5%以下」の採用が決まった城南町の防犯灯。ついに最初の設置工事が完了しました。2月13日昼間に確認、14日夜、15日夜と現地へ出かけて撮影しました。

設置されたのは、天文台で点灯実験して「これがお勧め!」と決定した機種。岩崎電気の製品です。実験の時と同じように家庭用の高効率型蛍光灯が取り付けられました。



連載「自己紹介」

中島 尚



自分で計画した自己紹介の企画ですが、とうとう自分の番がやってきました。長谷さんが書いていたように、昔のことが懐かしくなるような年になってしまいました。

私の天文との出会いは、多分小学校に入る前に住んでいた田舎で見た星空であったように思う。天の川がくっきりと見え、夜は懐中電灯（その頃我が家ではまだ提灯が現役であったが）などがないと歩けない。とにかく夜は怖かった。月夜は本当に明るく感じたものだ。

そんな私だったが、熊本市の上通りに引っ越してからは、夜の暗さとは縁がなくなってしまった。そのせいかどうかは分からないが、家にあった双眼鏡で夜空を眺めるようになっていった。中学校時代は例のゴルフキットで40cmの望遠鏡を作り、土星や木星火星を眺めていた。その後、ミザールの100cm反射で火星の観測などのまねごとをやっていたりした。なにせ、上通りといえは人通りの多いところなので、自然と酔っぱらいやお巡りさんにかからまれて、星を見せる機会が増えてきた。今の一般公開で星空を見せるという営みは、考えてみれば30年以上前から自然とやっていたようである。一度、舞

台に立つとその魅力（魔力かも）から離れられないというのと同じなのかもしれない。

熊本県民天文台とのつながりは、高校時代の友人に宮本さんの家に連れて行ってもらったのが始まりのように記憶している。その頃、熊本天文研究会（熊天研）と称して活発に観測会や例会活動を行っていたなかで、宮本さんの名前は全国に鳴り響いていた。その家に行くというので、二人で緊張してこちこちになって行ったのを覚えている。

その後、現在の天文台のある城南町の中学校に赴任することになり、天文台の設立時の活動を経験することが出来た。これが、現在の活動を支える一つの契機になったのだと思っている。一つのものを作り上げていくということ。プロジェクトを作り上げる大変さとやりがいを学んだように思う。

天文台が、私にとって人生の学校だったような気がする。



南の島からマロエレイ



自己紹介

山田京子

☆☆☆ まずはお礼の気持ちを伝えたい ☆☆☆

あれは平成5年の秋頃からでしょうか、春になるまでの間、たくさん子どもたちを、少しずつ少しずつ小さな車に乗せ、半年の間で一学年全部を連れてきたことがあります。塚原古墳公園内のこの天文台の近くで、中学生とバーベキューをしながら、暗くなるのを待って、それから星を見て熊本市内に帰っていていたニッサンのライトバンを覚えておられる方はいらっしゃいませんか？マッチを忘れていたりして、何度か火をもらったり、紙を頂いたりして、天文台の方々に大変お世話になりました。いつかお礼の気持ちを伝えたいと思っていました。いまでも大切な思い出です。

いろいろきつい状況にある生徒がいました。問題を起こした生徒もいました。「星を見に行こうか？」とその子達を誘ったのが始まりでした。「先生あのね、星を見ながら思ったよ。宇宙ってなんだかとてつもなくすごいね。それに比べて、人間て、なんてちっぽけなんだろうね。もしかしたらこの広い宇宙みたいに、ぼくたちの未来も永遠に続いていくのかもしれない。だから、ぼくはいつだってやり直せる。ちっぽけな人間だけど、大きな夢を持つんだ。その夢の大きさは、この星たちが広がる宇宙ぐらいだ。ぼく、頑張ってみようかな。」そんな話を聞きながら帰路をたどったものでした。



天文台の方々がいつも温かく見守ってくださったおかげです。それから、他の生徒たちも行きたいと言い出し、中学1年生の子どもたちは天体の学習に入ることもあり、車で少しずつ来台しました。また、時には、保護者の方々も一緒に行きたいと言ってくださったり、車を出してくださったりと、たくさんのありがたい申し出もありました。そのおかげで、たくさんの生徒をこの天文台に連れてくることができました。

その後三角町に転勤し天文台がすこし遠くになりました。それでも時々、この天文台のお世話になりました。アメリカやドイツやトンガ王国からのお客さんも連れてきました。豪華な食事の作れない私には、笑顔と天文台で見る夜空が精一杯のもてなしでした。しかし、いろんな所からの客人は、みんなとてもとても感動してくれました。また、星の観察の感動は、地元三角町で学校に泊りがけで星の観察会を実施するという原動力にもなりました。この企画をする勇気と絶対うまくいくという確信をもたせてくれたのが、この天文台での感動でした。

そして今から三年前、なんとナントこの天文台のある城南町に転勤してきました。もうまたまた感動です。そして、「星のお兄さん、星のお姉さん」と勝手に心の中で呼んでいた方々に[・]昼間お会いすることができました。この時は、感動と言うより、ちょっと恥ずかしい気持ちでした。お名前も存じ上げず、お顔も拝見したことがなく、それでも闇夜の声にいつも聞きほれていたのです。



転勤よろしく、この天文台の会員にと誘われてそのときに入会しました。ところが、今でも望遠鏡は動かせないし、星のことはよく分からない、居ても邪魔にしかならない存在の自分が悲しいのですが、ちゃっかりお客様をしてしまう私です。無口でおとなしく、人見知りをする私がこうして今でもルンルンと天文台に通えるのは、このようにすばらしい先輩方の温かい真心のおかげだと思っております。お礼の気持ちを伝えたいという長年の念願がやっとかきました。当時は思い出された方がいらっしやいましたら、ぜひ、ご連絡ください。

☆☆☆ 最後にひとつ ☆☆☆

いつも夜空を見上げる星の観察ですが、太陽って、東から出て北の空を通過して、西に沈むんですよ。真昼に太陽が北の空にあるって、なんだか変な感じ。カキ氷とてんぷらを一緒に食べたような感じ？なんともしっくりこない。でも、南半球で生活をする、太陽が北の空にあるんですよ。しかも、赤道近くだと、みんな真っ黒に日焼けをしますが、お月様も南中高度が高くて、月夜でもラグビーができるんですよ。星明りで散歩もできます。素敵ですね。こんなトロピカルな夜の小道を誰かと歩きたいなあと思いながら40歳に突入してしまったかわいそうな私です。

1月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率 7日/12日=58.3% 一般来台者数 17名 会員来台 27名

日付	天気	来客数	担当運営	記事
5日(土)	はれ	0名	中島、松本、 中尾(の)	2002年最初の運営日。しかしお客さんナシ。というわけで「パ-ルパ-」上映会♪(中尾の)
6日(日)	晴	なし	艶島、高田、 松本、小林マ、 富永	スターウォッチング 星空観察 スバルの微光星が7×50双眼鏡で見えそうで見えなかった。薄もやあり。 8時30分頃観測した人は少し良く見えたようです。(小林マ)
11日(金)	晴	6名 ファミ リーホ ッカイ ドー	長谷、西島、 松本、立川、 山田	ひさびさのすばらしい空。 恒星マラソンをする。リゲル、ベテルギウス、シリウス etc。 土星は 気流が悪いわりにはカッシーニはバッチリ。 家族ずれ、かなり感動されていました。 山田さんのボヤキ!!→「も～っ、1月4日にみんなで食べようと思っていちご持ってきたのに、私1人でぜんぶ食べちゃった。」「少々、ふとったかしら。」... (立川)
12日(土)	はれ	3名	中島、中尾 の、鹿釜	木星、シリウス、M42。 Talk About 艶島、西嶋、小林J、土山、山田、高田、松本、鹿釜、中島、中尾の ・20周年事業について。→高田さんがまとめて星屑へ。 ・2月のTalk Aboutは2/16。 (中尾の) (熊大天文部) 谷口、宮崎、川島、井尻

19日(土)	くもり はれ	7名	中尾の、松本 中島、富永	月、火星、木星、土星、リゲル、シリウス、 M42。 (熊大天文部) 宮崎、川島、井尻、林、弓 立、西川、丸本、御園生 (中尾の)
20日(日)	雨	丹部	艶島	杉上小 PTA の丹部さん来台。 PTA 主催で「5年生の星を見る会」を企画 したいとのこと。 事前の打合わせを実施。2/9or2/16(土) に。 (Tsu)
24日(木)	はれ		艶島、徳尾、 鹿釜	土星食のビデオ撮影をしました。 潜入時、やや曇る。出現時は雲が無く撮影 できました。 熊大天文部員は外で写真撮影。 (熊大天文部) 御園生、林、井尻、丸本、弓立
27日(日)	☉	0	Tsu、高田、 松本	来台者無し、寂しいですね。 寒い日が続いています。それが原因かな？ (松本) マンガ持ってきました。 「日露戦争物語」①② 「ミスタージパング」⑥⑦ 「プラネテス」①② 「サトラレ」① (高田)

寒～い日と、ポカポカ陽気の日が、かわりばんこにやって来ますね。世間ではインフルエンザがとっても流行っています。流行に敏感な私は、幸い？にも流行に乗り遅れまして、元気ですよ～。元気といえば、土星と木星、冬の星座がきらびやかに輝いています。もうしばらくは楽しめますね。あ～それにしてもお天気が・・・。

☆H13年度分の会費納入をお願いします。正会員8000円 友の会会員5000円☆

☆3月の天文現象&行事☆

- 1日(金) きりん座Rが極大(周期270日 7.0～14.4等)
- 6日(水) 下弦(10:25)
啓蟄(けいちつ…冬眠した虫類が、陽気で地上に姿を現す)
- 7日(木) 冥王星が西矩(13.8等 視直径00.14")
- 9日(土) トークアバウト(天文台にて 20:00～)
- 11日(月) うみへび座Tが極大(周期299日 6.7～13.5等)
- 13日(水) 木星の赤緯が最北(+23°27'24")
いっかくじゅう座Vが極大(周期341日 6.0～13.9等)
- 14日(木) 新月(1↑:03) 月の距離が最遠(406712km 本年最遠)
うしかい座Rが極大(周期223日 6.2～12.1等)
- 18日(月) はくちょう座Xが極大(周期408日 3.3～14.2等)
- 20日(水) 土星とベスタがおうし座最接近 土星食(東日本以北で見られる)
- 21日(木) 春分(しゅんぶん…昼夜の長さが同じ。前後各3日を含め、先祖供養の日)
- 22日(金) 上弦(11:28)
- 27日(水) わし座Rが極大(周期284日 5.5～12.0等)
- 28日(木) C/2001C1彗星が近日点通過
- 29日(金) 満月(03:25) 木星が東矩(-2.2等 視直径38.4")
- 30日(土) カシオペア座Vが極大(周期229日 6.9～13.4等)

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2002年3月号 通巻324号
 発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226
 熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台
 TEL 0964-28-6060
 振替口座 01980-0-24463
 熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作
 ホームページ <http://astro.magma.ad.jp/>